

COVID-19感染環境におけるPP支援判断プロセスと条件

感染リスク

省エネ相談地域プラットフォーム事業における外部専門家・職員の事業者支援等活動におけるCOVID-19感染リスクを洗い出し、総合図に示すようなA～Dの4要素に整理した。

A.感染社会環境リスク

COVID-19 地域感染状況及び抑制施策の発出・実態

PCR検査・抗体検査の検査態勢の十分で無い中、判断出来る情報が無いことは、検討を難しくしている。

B.支援先事業者の環境リスク

C.移動環境リスク

D.個人別感染リスク

その発生可能性と影響度評価については、事業開始時点までに整理する状況に有る(現場を知るメンバーの参画が重要)。

感染重症化リスク(感染後死亡リスク等)

- 医学的な知見は、グラフに示す厚生労働省・神奈川県・中国武漢などのCOVID-19感染情報がWebで確認されたの整理した。(グラフ参照)
- これらの理解によれば、感染者の60歳以上の致死率が1%以上で、年齢が高くなるほど指数関数的な増加に近い傾向を示していることである。
- もともと、高齢化することで免疫力、感染リスクを高める基礎疾患の罹患のリスクが高くなること、個人差も容易に想定される。
- 同じ個人でも、訪問直近1～2週間で免疫力に関連した体調(体温・倦怠感など)顕在化した状況の他、顕在化はしていないが疲労に係る作業や過剰な運動の実施の遅れ時間での発現の可能性確認は重要な確認事項となる。
- 弊PFの職員・外部専門家の2020年度18名の年齢別人数比率はグラフに示すように、60歳代以上は半数である。この年代者は、PF活動推進に必要な知識並びに経験豊富な人材である。一方、30歳代40歳代の比率も1/4程度居る。

支援リスク評価

- 危険度の閾値とも考える、感染者の致死率をどの様に判断するかは、活動の重要度を勘案する事になる。 ※作成中
- 判断の要素として、重症化率(致死率にも関連)のほか重症化しないが故に回りの関係者に感染を広げてしまうリスクは評価しなければならない。
- リスク評価基準は、支援リスク評価による支援方式選択プロセスに用いる。

支援リスク評価による支援方式選択プロセス

- 下図の支援プロセス概念図に示すプロセス

